

Book Review



チェアサイドと連携した インプラント技工の実践 治療計画からメンテナンスまで 歯科技工士に求められる役割

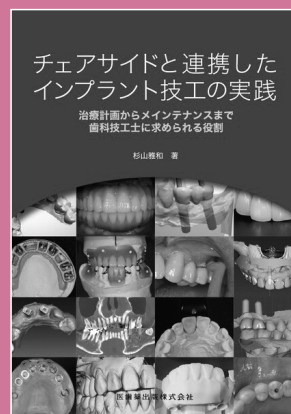
杉山雅和 著



Reviewer

児玉利朗 Toshiro Kodama
(神奈川歯科大学特任教授)

A4 判, 176 頁
カラー
定価 9,900 円
(本体 9,000 円+税 10%)
医歯薬出版刊



インプラント治療における補綴装置としての上部構造の作製は、咬合機能回復のための最終ゴールであるという観点から、本書のチャプター 1 ではインプラント埋入前の設計として、診断用ワックスアップ、埋入手術用サージカルガイドの設計製作、最終上部構造を前提としたプロビジョナルレストレーションについて、詳細に解説がなされています。特に審美領域ではインプラント埋入位置と上部構造の設計は重要であり、シミュレーションソフトを駆使して、セメントリテインとスクリーリテインの相違点など、わかりやすく解説されています。また近年では、CBCT の急速な普及による DICOM データとサーフェススキャンとしての STL データの組み合わせマッチングにより、精度の高いサージカルガイドの作製が可能となりました。この点について本書では埋入手術用の 3D ガイドの作製法がステップごとにわかりやすく記述されています。これは、歯科医師歯科技工士両者にとって治療を進めるうえでの共通言語的な役割を提示しています。

次にチャプター 2 では、さまざまなケースに対応した具体的な実症例が提示されています。審美領域においては、多くの臨床例の提示のもと軟組織の形態と歯冠形態の調和についてプロビジョナルレストレーションから検討し、チーム医療の連携を実施しながら最終上部構造の作製を手掛けています。歯頸ラインの軟組織の調和については B.O.P.T. コンセプトに従ってプロビジョナルレストレーションの歯肉縁下形態を考慮し、インプラント周囲の軟組織を成長成熟させていく概念のもと、単に技工の技術的な面だけでなく軟組織にも広く知見を取り入れた著者に感服するところであります。さらに、セメントリテインにおけるカスタムアバットメントの設計や作製材料の選択基準、スクリーリテイン症例における対合歯の状況を考慮したアクセスホールなどの設計位置など、多くの有意義な情報やノウハウが惜しみなく披露されています。メタルフレームやジルコニアフレームのフルアーチ症例やボーンアンカーでジルコニアブリッジ症例も紹介され、多くの読者の皆様

方に参考になるものと思います。

IOS の活用についても症例ごとに詳しく紹介されています。現在 IOS に関する多くの機器が臨床応用されるようになり、アナログ印象採得だけでなく IOS によるデジタル印象が臨床に取り入れられています。これを実施するには、チェアサイド IOS とラボサイドのデジタル機器によるデジタルデータの情報共有が重要となります。本書では、IOS データを取得後のワークフローについて詳細に解説され、スキャンボディの選択、ミリングセンターの活用など多くの情報が提示されています。

本書の特徴は、補綴主導型インプラント治療を実施する際に、理想的な最終上部構造の設計・治療計画の立案により、安心安全なインプラント治療を実施するためのノウハウを提示し、チェアサイドと技工サイドが緊密な連携をとることの重要性を示したものです。これからインプラント治療を始める先生や、IOS を取り入れようとしている先生方にとって、バイブル的に活用いただける一冊と確信いたします。